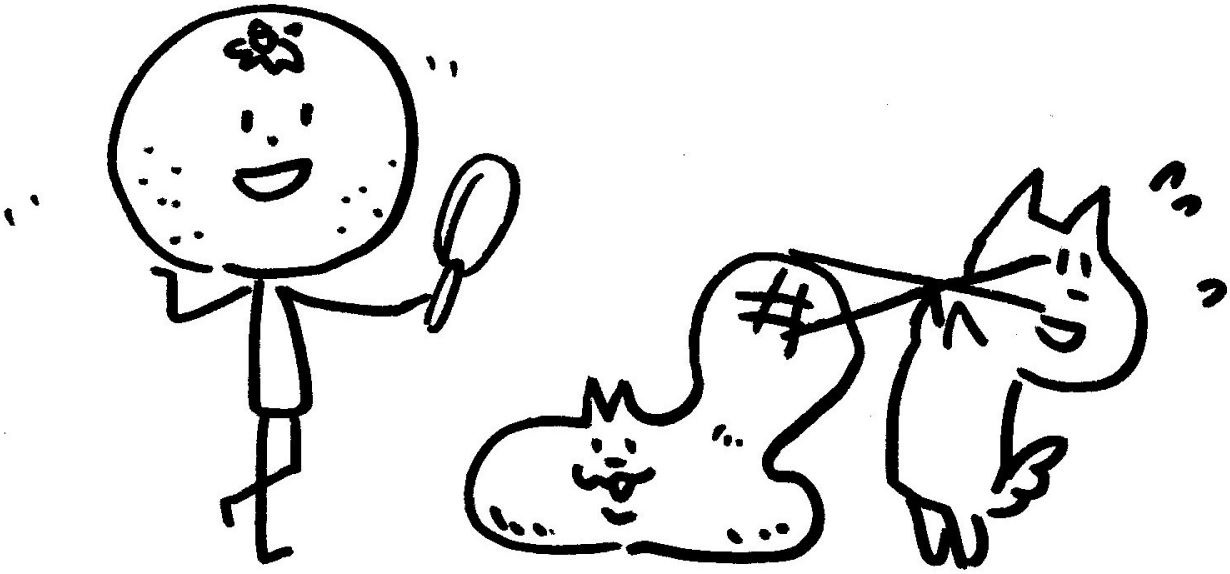
上田地域もの・こと交換制度
蚕都くらぶ

ま～ゆ

蚕都くらぶ・ま～ゆ会報 No. 39 2008年1月12日 発行



わたしたちの願い

蚕都くらぶ・ま～ゆという上田地域通貨モノコト交換制度は、地域で暮らすひとびとがお互いに助け合って楽しく暮らすための制度です。

私たちは、この地域の豊かな自然やひとびとの知恵・技術・経験・人柄を地域の宝と考えます。その宝を活用することで、より豊かな地域と人間関係を目指しています。

蚕都くらぶ・ま～ゆは、地域通貨を使って人と地域をつなぐシステムです。

- ❖ 人と人との新しい関係が生まれます。
- ❖ 自分の能力を再発見できます。
- ❖ 人が活き活きすることで、地域が元気になります。

「協働、共生、共感」の世の中を！

蚕都くらぶ・ま～ゆ 代表　安井啓子

あけましておめでとうございます。

二〇〇八年の幕開けをま～ゆのみなさんは、どんな想いで迎えられたでしょうか？

昨年の世相を表す漢字は「偽」でした。何と哀しく、情けないことでしょう。儲かるとなれば、世界中からモノを買い集め、人を騙してまでも金儲けに走るその根性に、私は「怒」の心境です。経済のグローバル化は、止まるところを知らず、市場原理主義が、一層醜さを露わにしたモンスターのように世界中を覆っています。

自然界では、モノは高いところから低いところへと流れるのが道理ですが、〝お金〟だけは、低いところから高いところへと動き、力の弱い庶民は、ただただ吸い上げられるばかり。昨今の原油の高騰（これも投機による操作とか）は、生活のあらゆる所に波紋を広げ、生活防衛に汲々してしまいます。格差社会、ワーキング・プア、貧困層の拡大、勝ち組・負け組等と本当にいやな言葉が飛び交う世の中に、ため息ばかりついている訳にはいきません。限りない競争と効率性ばかりが優先され、一部に富が集中する社会の在りようは、やっぱりどこか狂っています。協働（共に働き）、共生（人も自然も共に生かしあい）、共感（共に感動を分かち合う）を大事にする、もうひとつ別の〝ものさし〟が価値あるものになる世の中に作り変えたいものです。

さあ！そこで、ま～ゆの真価が問われます。世の大勢に流されないで、お金では計れない本当の豊かさを多様に創り出すことを楽しみましょう。

今年度から、ま～ゆ市へ参加された方や各種イベントの運営に協力された方には、〝ま～ゆ〟が支払われるようになりました。できる時に、できることを気軽に引き受け、ま～ゆを自分が必要としているものに使ってみませんか？

ま～ゆでは、みなさんの知恵、技術、時間、人柄、そしてみなさんの笑顔が何よりの宝です。通帳のプラス、マイナスは気にしないで、〝ケッセラ～セラ～〟と今年もま～ゆ使いの名人を目指しましょう。

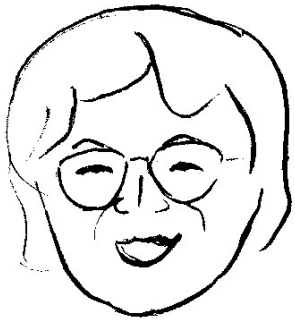
総会から

しめ縄作り

ま～ゆ市で“しめ縄作りの講習会”があると聞き「さあ今年は自分でできる」と、よろこんで帰ってくると法事の予定が入っていて、残念に思ってあきらめていました。

しかし、当日の法要は早く終わり、「これなら間に合う」と思い寿限無に行ってみると，皆一生懸命作っていました。遅れを取り戻そうと気持ちがはやりましたが，先生は皆に呼ばれて忙しそう。それに気づいた かじやさんが手取り足取り教えてくれて、最初の一つはかじやさんが見る間に仕上げてしまいました。

次は自分で作ろうと一生懸命やってみるが「こつ」がつかめません。周りの人に手伝ってもらって，やっと２つ目が出来ました。３つ目は少し分かってどうやら出来上がり、４つ目は面白くなってきて自分だけで作りました。



皆から「早くリースのしめ縄作りに取りかかるよう」に言われ，今度はそれに挑戦しましたが，ねじりが弱く何回かやり直していると、「お茶だよ」と言われ、あわてましたが、どうにか間に合いました。初めてのことにチャレンジするという事は苦労だけど本当に楽しいですね。

ひげがいっぱい出ている状態で持ち帰り，そのままにしておいたら、主人がひげをきれいに切って仕上げてくれました。見事な出来栄えとなり，二人の合作で今年は良いお正月が迎えられそうです。

№80 きよちゃんこと山岸きよ子

餅つき大会

はじめまして～。新人の「のだま」（藤川まゆみ）です。息子の晴之助（はるのすけ）は７歳です。
餅つき大会でま～ゆデビューしました。臼が三つも並んで、次から次へとつかれる餅たち。すごい勢いです。
というか、皆さん慣れていて、流れるようにすすんでいました。テフロンのフライパンでつきあがったお餅を運んだり、わらを丸めて臼を洗うたわしにしたり、知恵と工夫と歴史が感じられ、今後、教えを乞おうと決心！です。
待ちに待ったお餅のお昼ごはん。お餅三昧かと思いきや、あれこれ皆さんの持ち寄りの品々、お餅以外のものでおなかいっぱいになりました。もちろん、つきたてのお餅もおいしかったです。特にのり大根　ま～ゆっておいしくてたのしいですね～。
今後ともどうぞよろしくおねがいします。

ま～ゆのみんなに、支えられ！！

遊び塾の、おじゃるです。
　遊び塾のなかの事。
　今、20名近くの子ども達が登録し、毎日10名前後の子ども達が入れ替わり来ています。

　この子ども達の８割が発達障害の子どもと不登校の子ども達です。
残りの２割は、母子家庭であったり、生活保護ギリギリの子ども、そしてネグレクトと言われる、ろくにご飯も食べさせてもらっていない子ども。そして、おじゃるがやってる「いじめ」の講演活動を聴き、おじゃるを頼ってきた子ども達です。
その多くの子ども達が、友達がいなかったり、周りから厄介がられてしまう子ども達です。
　しかし、子ども達は、
唯一この居場所に来れば、仲間が居る！
　ここに来れば、自分が此処に居て良いんだ！
　ここに来れば、おじゃるや、他のスタッフが受け入れてくれるんだ！そう信じてやってきます。

この居場所の名前は『だもん』
　人間だもん。いろんなことあるさ。
　人間だもん。いろんな人がいて良いのさ！
この考え方から名前をつけました。

　今年の４月から始めた居場所だったけど、10月からスペースを移動しなくてはならなくなってしまいました。

　遊び塾には、資金がない。それに、参加する子ども達からは、高いお金はもらえない。
ここに来ている子ども達は、みんなそれぞれ事情を抱えてる。
遊び塾が設定した参加費を払えない子ども達も何人かいる。
しかし、参加料を払えないというだけで、来たいのに来られないなんて、そんなことはあってはならない。

遊び塾がそれだけのことをしている自負はある。
子どもの為の活動をするなら、全ての子ども達に参加出来るチャンスが与えられてないなら意味が無い。金持ちの子どもしか利用出来ない支援やサービスなんて、あってはならないのだ。
だから、事情のある子ども達からは参加料をとっていない。

　それもあり、新しいスペースは家賃で精一杯だ。
スタッフは、ほぼ全員が手弁当。
新しく借りたスペースは、何も無い。
そこで僕らは、子ども達と一緒に手作りの居場所を作ろう！と決めた。
頼りになるのは、ま～ゆのみんなだ。

ま～ゆ市でお願い

　ごんべえさんに話を持ちかけたら、二つ返事で快く引き受けてくれた。
ヒデさんから、専門的な案も貰った。
ごんべえさんが『だもん』に来て、基礎工事がはじまった。タイル張りなので冬は冷える。だから角材とベニヤでスノコを作る。ごんべえさんの指示で子ども達が手伝う。
　孫の手さんも駆けつけてきてくれた。流石、孫の手さん。丁寧な工事をしてくれます。

　ま～ゆのＭＬに呼応して、ヒデさん、ホーおじさん、都々平さん、ターボさん、おまかせさん、かっとまんさん。沢山の方から FAX・電話機・椅子・コタツ・こたつ布団・棚・黒板・ストーブ・じゅうたん。備品が、集まってきた。

　まだまだ、完璧な状態ではありません。
　もっともっと、必要なものが沢山あります。みなさんの家に眠っている物。良かったら、ま～ゆで分けて頂けませんか？ そして、ごんべえさんや、孫の手さんのように労力で、子ども達のために動いて頂ける方いませんか？

　また、子ども達と実際に関わってくれるボランティアさんも募集しています。年齢、性別関係ありません。
　みなさんに出来ること沢山あります。それを子ども達のために、おじゃると一緒に活動して頂けませんか？

　子ども達の居場所を・・・手作りの居場所を・・・地域のみんなで作り上げる居場所を・・・一緒に作っていきませんか？
　みなさんの協力をお待ちしてます。

　そして、労力で助けてくれたみなさん。
　物資支援で助けてくれたみなさん。
　心から、ありがとう。
　みなさんのおかげで、日々子ども達は笑顔で居場所に通ってきています。

みなさん、ありがとう。

ま～ゆ長屋の縁台ばなし

今号から 毎号テーマを決めて、会員の皆様に「その思い出やら、思ったこと」を語っていただくことにしました。

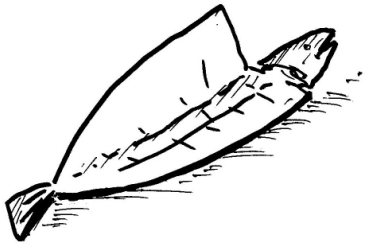
その１回目は 正月 です。

私の正月

上 野 博 子

太平洋戦争の敗色濃くなる昭和19年暮れ、私は女学校一年生でした。そして以前にも書いた下伊那郡三穂村（現飯田市）に住んでいました。

暮れの或る日、母と農協の庭で列に並んで、ずい分長いこと正月用食品の配給を待っていました。長女の私は何かと母の手伝いをしなければなりませんでした。米も 酒も 煙草も 食用油も配給でした。



そのとき年越し肴として配給になったのは秋刀魚の開きでした。鰤（ぶり）も鮭も海では泳いでいたのでしょうが、世の中からはとうに消えていました。

それでも母は「こんな時世なのに、お正月用のお餅が搗（つ）けるのは有難いことだ」と言いました。まわりがお百姓さんばかりの山村なので町中よりは恵まれていたのです。

アメリカジョージア州アトランタで年末年始の食料難

ふかちゃんこと 金 井　深

4年前までのアトランタ駐在中、クリスマス休暇に女房とカリフォルニア州を旅しました。12月25日ロサンジェルスの南200km、メキシコ国境まで50kmのサンディエゴのホテルにチェックイン後、2人でディナーを楽しもうとレストランを探して走り回りましたが、全部の店が休みでメキシコのティワナ市近くまで行っても一軒も見つからず、夜9時過ぎにホテルの近くの寂れたコンビニで干からびたサンドイッチとジュースを買い、ホテルの部屋での わびしいクリスマスディナーとなりました。

新年は元日だけが休みで、日本人駐在員の家族を招き日本式のお正月気分を楽しんでもらおうとコタツをセットし、貴重な日本酒とそばなどをふるまいました。薬味の細ネギ代わりの青い茎はニオイがきつくて不評で、最も喜ばれたのは女房が日本から密輸してきたみかんでした。アメリカ大陸は南北半球にまたがり陸続きのため一年中 旬の物がありますが、豊富な柑橘類は全て皮と中身が密着し、切ってスプーンで食べるので、手でむいて食べられるみかんを切望していたからでした。

年末年始は大嫌い。されど・・・

「辛口」こと 宮崎省吾

私は年末年始が大嫌いです。会社や仕事は休みなのですが、ちっとも休みにならないのです。年賀状の準備、年末の挨拶、大掃除、お節料理、迎春の飾り付け、餅つき…行事が目白押しで文字通りの師走です。

年が明ければ、初詣、初日の出、年始の挨拶、初なんとか…家によっては一族郎党が寄ってたかってどんちゃん騒ぎ、寝正月など夢のまた夢、初夢どころの騒ぎではありません。お金もかかります。帰省するにせよ、されるにせよ莫大な出費です。忘年会、新年会、お歳暮、お年玉。子沢山、孫沢山の方のご苦労は察するに余りがあります。私は自営業者でしたから、ボーナスなどはなく、遣り繰り算段の連続でした。これをにこやかな晴れ姿で粉飾しなければならないのですから大変です。

というわけですが、かといってそう簡単に逃げ出せないのも事実です。上述のどの行事を取ってみても、私がサボっているのはごくわずかです。

“怠け者の節句働き„もいいところですが、慣習の強さを改めて感じます。

強いていえば、年末年始の意味は、すべてを年単位で考えることだと思いますが、農耕時代に意味を持っていた諸行事を、どう今の社会に適用していくかが問われているような気がします。私はものごとを年単位で考えることに決して反対ではありません。循環型社会、自然のサイクルに逆らわない生活のために、大事なことだと思っています。

問題なのは、どう年末年始を過ごせばいいのか分からないことです。年単位思考と農耕型儀式のはざまで、私のよろめきはしばらく続きそうです。皆さんはどうされているのでしょうか。教えてください。　　完

お正月は「ぜんざい」に決まり！

ホーおじさんこと 黒田弘志

私の故郷の鳥取県西部とお隣の島根県東部には「お雑煮」がありません。

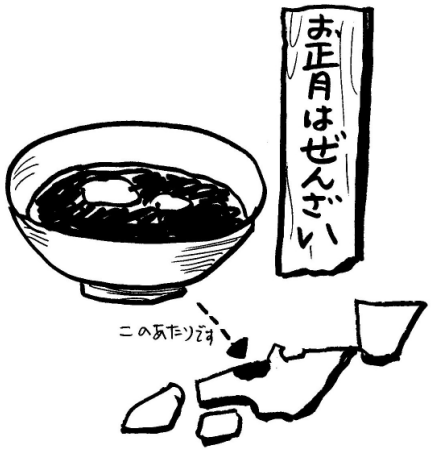
お正月に家族が顔を会わせて、新年最初に頂くのはおせちと「ぜんざい」です。

あの、小豆汁に丸餅が入って、ベタベタに甘いやつです。もちろん縁起物ですから甘党も辛党も等しく頂きます。

私は長らく「お雑煮」とは、この「ぜんざい」のことだと信じていました。18才で東京へ出て、初めて「本物のお雑煮」を頂きました。かなりショックでした。

全国で正月にぜんざいを頂くのは出雲大社周辺のこの地域のみだそうです。この出雲文化圏では「神無月」を「神有月」と言いますから、食文化も独特なんでしょう。因みに「歳とり魚」の習慣もありません。これは信州に来てから知って、かなりビックリしました。行事と食事はその地域の独自性を色濃く反映しますから、おもしろい。

故郷では今でも正月は「ぜんざい」です。幸い父は甘党なので「正月から甘いものなんて・・・」と文句を言った事がありません。辛党には新年早々の苦行かもしれませんが。



甲田はきもの店　No.39 甲田
●ご利用金額の10%まで「ま～ゆ」をお使い下さい
●靴、草履、下駄などの修理は20%まで使えます
上田市中央4-6-24
TEL22-1272

七田チャイルドアカデミー上田教室　No.11竹田
●体験レッスンの20%まで「ま～ゆ」をお使い下さい
上田市中之条101-1利幸第2ビル201号
TEL23-2952

昔の正月

たまちゃんこと 田 玉 胡 江

しめ縄作りも終わった。私が小さかった頃(終戦前後)、しめ縄は男が作るものとして作らせてもらった事はない。初仕事だった。

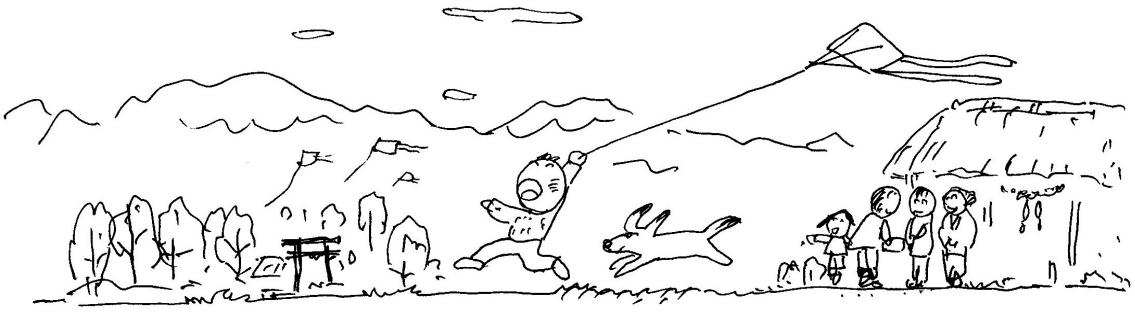
もうあとわずかで正月、新しい年となる。昔の正月？忘れかけているむかーしを思い返してみると…本当に懐かしくなる。いつまでも追憶の中に浸っていたい。

元旦は皆が早起きをする。父が神棚にお灯明を上げ、かしわ手を打ち、年頭のお願い事と、一年の無事を願ったと思う。寒い中、表戸を開けて父は年始に出かけ、母が近所からの年始を受ける(隣組から相隣組)。小さい子供も親のうしろで挨拶らしき事をした。父が帰宅すると家中で雑煮で「おめでとう」、一年の始まりです。ご馳走といっても魚と豆、野菜の煮しめぐらいのもの。現在のようなものはない。それでも大変なご馳走だった。暖かな炬燵は家の一箇所にしかない。家中でわいわい、がやがや、みかんや柿を食べながら花合わせやカルタで遊び、退屈すると近所の子供たちと羽根つき、たこあげ、鬼ごっこなどの遊びに夢中になった。遊ぶ場所は主に道路。車が少ない時代の良い遊び場所だった。

着るものも履物も新しくしてもらえ、美味しいものが食べられる正月は楽しみだった。今考えると親子、兄、姉の絆がひとつの炬燵を通してしっかりしていたのかもしれない。

七日正月、どんど焼き、二十日正月。と続き、“かに年とり„(記憶は定かではないが、災難除けだよと母が言っていた記憶がある)では、小さい紙にかにと書いて家の周り、主に戸口に貼った。そのつど小正月がやってきた。

雑煮は定かでないが、もちが大きかった事と、珍しい肉が入っていたことを覚えている。肉は12月になると、家で飼っていたニワトリやウサギ等を生肉業者にきてもらって加工した。美味しかった記憶がある。ないないづくしの中で、工夫された生活だった。親になった今、あの頃の親は「えらい！」と思う。



ま～ゆ長屋の縁台ばなしはいかがでしたか?

テーマ募集　採用された方には**500 ま～ゆ**進呈！！

今年から、ま～ゆ活動に関わった人には会から「何でもかんでも」“ま～ゆ„ を支払うことになりました。会報の原稿料は1000ま～ゆです。ドンドン投稿し、提案して“ま～ゆ„ を稼ぎましょう。

「～の沙汰もま～ゆ次第」と言われている(?)ように、どんな場面で“ま～ゆ„ が活きるかしれません。常にま～ゆ通帳を持ち歩いて“ま～ゆ„ が生活を支える実感を味わいましょう。

ま～ゆ市に参加すると“**200 ま～ゆ**„ が獲得できることはもうご存知と思います。**通帳**を忘れないように持参してください。

12 月のま～ゆ蚤の市から

原始に返って豆たたき

12 月 2 日朝 9 時半、秋和のビニールハウスに 10 名くらいが集まりました。

11 月の大豆収穫の際に機械で脱穀しきれずに干してあった分を、棒で叩いて莢(さや)を割るという昔ながらの方法で脱穀するためです。

豆叩きには３枚の手ぬぐいが必要です。１枚は首に巻き、１枚は頭にかぶり、１枚は鼻と口を覆います。手にするのは１メートル強の角棒です。この格好で永田町あたりを集団で歩いていたらどうなるでしょう？？ 私は内心爆笑しました。

私の隣ではケイさんが思いっきり叩いてました。また､腰が痛くなるんじゃないか と心配になるくらいの勢いでした。誰かのことを思い浮かべてたのでしょうか？？

皆が力を込めて叩く音は、近くのカインズホームの駐車場からも聞こえたそうです。

叩いた後は、大きい笊(ざる)でふるって、残りは「とうみ」というもの（私は見たことがありません）にかけるそうで、その作業はごんべえさんにお任せです。

ハウスの中の作業なので寒さとは無縁でしたが、全身ほこりだらけになりました。殊に男性陣はデリケートにできているらしく、くしゃみを連発している方が約数名。

２日の午前中だけでは終わらず、３日と４日も午前中かけて作業しました。全部をこの方法で脱穀するのは考えただけでも気が遠くなりますが、一部だけならみんなでワイワイ言ってやるのも楽しいものですね。　（にゃんこ先生　記）

はじめまして、ma2（まに､と読みます）と申します。

★ 性別…男前　　★ 歳…割りと若い…

★ 出身…大分県　　★ 現在地…長野市箱清水

★ 趣味…アフリカの太鼓、農業、人との交流…

★ 今までの略歴…

高校を卒業後、憧れの東京へ就職、憧れていたのが幻想だと気付き雪を求めて北海道へ、そしてニュージーランドへ、帰国後長野へ流れ着き　立山や白馬で夏仕事して冬場は各地へ、夢敗れさ迷うように長野市へ、アフリカの太鼓に出会い憧れのアフリカの地ギニアへ、戻って現在に至る。

★ 近況…近々お店をオープンさせるべく活動中。

来年３月下旬、農業、環境、文化 コミュニティカフェ『ずくなし』をオープン

オーガニックカフェ、フェアトレードコーヒー、信州特産郷土料理、有機野菜の直売所、環境に配慮した雑貨や衣類、ライブ、イベント、ワークショップなどなど…

是非ともみなさんよろしくお願いします。

２月中旬からお店作りを開始、ボランティアスタッフ大歓迎！ご飯は出ますよ～

オープニングスタッフも若干名募集中！特に厨房スタッフ急募。

みんなで作り上げるお店です。何かやりたいことがあれば気軽に相談下さい。。。。

ま～ゆも使えるようになると楽しいですね♪

将来的にはま～ゆで勉強して長野市にも地域通貨を立ち上げたいです。

これからもちょくちょく参加させていただきますのでよろしくお願いします。

ま～ゆな人

今回は会員番号148番 ちゃーこさんこと
河野三枝子さんをご紹介します

ちゃーこさんがま～ゆに入ったきっかけは清水卓爾さんから「面白いグループがあるよ」と勧められたからだそうです。そこで、知り合いで先に入っていた幸子さん、Fuji さん、早乙女さんから色々情報を集めました。「うん、いいな」とちゃんと納得してご主人のかっとまんさんと参加する事にしました。

彼女のこのようにしっかり調べて行動する習性は、結婚まで勤めていた製薬会社の研究室で、抗生物質の構造を決定する仕事をしていたからでしょうか。六角形の亀甲形の(私にはわけのわからない)塩基を作っていたとのことです。「薬が効くかどうかの動物実験もやっていたのですか」と聞くと、「それは専門のところに出していましたよ」とおっしゃいました。学生時代は薬草の単位があり、名前を覚えるのがいやで苦労したそうです。

でも今は「上田自然に親しむ会」の会員として 花の名、樹木の名前をとってもよく知っています。さらにレンズで覗いて「めしべはこれ、おしべに花粉が見えるでしょ」などと花の構造も私に教えてくれます。ただし丸暗記は苦手で、論理的に理屈をつけて覚えるのだそうです。パソコンも得意で、いろいろできて「上田自然に親しむ会」では花の名前のリスト作りを担当しています。“科”を入れ、“属”はラテン語で入れています。

いつも努力して自分で解決してしまう性格は、小さい頃からで、「手の掛からない子供だった」と親に言われたことでも思い当たるそうです。二つ違いのお姉さんがいましたが、口が達者でかなわないので目立たないようにしていたとか。「二番目って上には頭が上がらないの」。なんだか我が家の娘姉妹も同じような関係だったなと思いました。

進路を考えたとき、お父さんから「手が器用だから建築のほうへ進んだらどうか」と言われた事があったそうです。「もしそれを選んでいたらどうだったかね」と笑っていました。

結婚してからは、かっとまんさんの勤めの関係で4年ほどイギリスで生活した事があります。そこで娘さんが生まれました。慣れない英国でのお産は、ちゃーこさんが和英辞典、先生が英和辞典片手でやり取りをしたそうです。娘さんが生まれてすぐ かっとまんさんがアフリカへ出張になり、ここでは3、4日の入院があたりまえでしたが、日本並に1週間入院していたそうです。娘さんは英国に生まれたので日本と二重国籍になってしまったのだそうです。20才になったとき国籍を日本に選びました。

日本に帰国してから ちゃーこさんは学生時代に覚えたスキーを始めました。娘さんが３歳だったので、スキー場の託児に預けて楽しみました。そのうちに家族皆がスキーを始めて、年頃になった娘さんは、スキーが病み付きになり、11月の初めから６月頃まで雪を求めて山に行っているそうです。家族でのスキーは今でもずっと続いています。

ま～ゆでは田植え、味噌プロジェクトに参加し、豆撒き、草取りにも積極的に出ています。豆たたきもやってみました。身体を動かす事が大好きなちゃーこさん、これからもま～ゆでたくさん活躍される事でしょう。

ちゃーこさんのニックネームは こどもの頃からで、「(気がついたら)ちゃーこって呼ばれていたの」だそうです。きっと舌足らずのちゃーこさん自身が、こう言っていたのでしょうね。

ミーすけ 記

地域通貨をこえる「ま～ゆ」

●「ま～ゆ」は信州上田の地域通貨

NHKの「風林火山」をご覧の方は「上田原合戦」と「戸石崩れ」で武田信玄が村上義清に2度敗れた地と言うだけで、上田市がどの辺りに位置するかおわかりになるかも知れないが、ご覧になっていない方のために。

上田市は軽井沢と長野のほぼ中間に位置し、東京から長野新幹線で1時間半という時間距離にある。2006年3月に周辺町村の真田町・丸子町・武石村と対等合併し、東京23区（約621km²）に迫る広大な面積の新上田市（約552km²）が誕生した。人口は約16万人。

この地域に「蚕都（さんと）くらぶ・ま～ゆ」が誕生したのは2001年である。1999年5月にNHKで放映された「エンデの遺言」を契機に全国で湧き起こった地域通貨ブームの流れの中で、代表の安井啓子氏を中心に2001年6月から地域通貨に関する学習会、シンポジウム、先進地の視察を精力的に重ね、同年11月に設立にこぎ着けた。その後、マスコミに何度も取り上げられ、1年後には会員が130名を超えるまでに成長した。

「蚕都くらぶ」という名称は養蚕・蚕種・製糸で栄えた蚕都上田にちなんだもので、「ま～ゆ」は繭をもじった地域通貨の単位である。しかし、会の名称としても「ま～ゆ」を使う会員がほとんどであり、杓子定規でないいい加減さも会を成長させた秘訣なのかも知れない。

●蚕都くらぶの活動はまちづくりの原点かも

蚕都くらぶの活動の最大の特色は「この指とまれプロジェクト」だと私は考えている。例えば、「自分たちが食べるお米は自分たちで作ってみたい」と指を立てて仲間を集め、須川地区の遊休荒廃農地を借り、田んぼプロジェクトを立ち上げた。同様に「昔ながらの方法で味噌を作りたい」や「無農薬有機栽培の野菜を食べたい」などを出発点に味噌プロジェクトや秋和菜園プロジェクトを立ち上げた。

参加者が好みの野菜を作っている秋和菜園

そして大事なのは、これらの根底に「安全で安心な食」、「遊休荒廃農地の活用」、「伝統的技術の継承」、「環境保全」などといったそれぞれの思いが流れていることである。これらの一つひとつはどこの地方都市にでも当てはまるまちづくりの重要課題であり、蚕都くらぶでは大上段に構えず、自分たちが楽しみながら複合的に問題解決に向って前進しているのである。

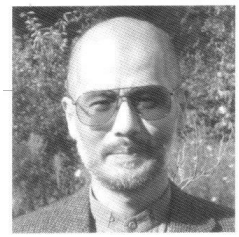
プロジェクトに参加している者全員が、必ずしも問題意識を共有しているわけではないが、一緒に作業することで、徐々にお互いの考えに理解を深めていることも事実である。

●でも順風満帆というわけではない

蚕都くらぶでは1ま～ゆ＝1円を目安にモノ・コト交換をしているが、ま～ゆが貯まっても換金はできないし、マイナスになっても返済の義務を負わない。にもかかわらず、ま～ゆ通帳の残額がマイナスになることに抵抗感があり、だんだんモノ・コト交換をしなくなる会員もいる。また、色々な取引を会員の記録として残せるように通帳方式を採用しているが、いつもま～ゆ通帳を持ち歩いているわけではないので、モノ・コト交換しても記帳をし忘れてしまったり、

竹内 秀夫

都市・建築工房　代表
1998年に故郷である上田市に戻り、中心市街地活性化、
蚕都の面影を今に伝える蚕室造りの民家や洋風建築の保存・活用、
環境保全活動等々、市民レベルのまちづくりをライフワークとしている。



顔見知りになると、記帳せずに済ませてしまったりする会員もいる。

こういう状況が積み重なることによって、参加者が固定化され、モノ・コト交換が停滞し、組織が衰退していくのかも知れない。

●新たな展開

月１回のモノ・コト交換の場である「ま～ゆ市（いち）」や各プロジェクトにもっと多くの会員が積極的に参加し、ま～ゆを活性化させるための仕組みづくりを検討し始めた。

まず、積極的な参加を促すためにま～ゆを簡単にGETできる場を増やすことが提案された。例えば、遊休荒廃農地であった須川地区の田んぼや畑の作業に参加した人、ま～ゆ市の準備や運営を手助けした人、ま～ゆ市に参加した人はま～ゆを受け取ることができるようにする。

次いで、モノ・コト交換の情報として当初から「お助け一覧表」を用意しているが、「こんなことができる」ということよりも「こういうことをしてほしい」を中心に情報を発信する重要性を認識させられた。しかも「こういうことをしてほしい」という場面は大抵の場合、緊急性を要することが多く、そういうことにも対応できる情報発信の方法も検討中である。

●地域通貨の可能性

2007年のノーベル平和賞は「不都合な真実」のアル・ゴア氏が受賞した。受賞理由は長年に亘る地球温暖化防止の啓発活動ということだ。これに異論はないが、地球温暖化防止活動に地域通貨を使えば、もっと簡単に効果を期待できると私は信じている。

例えば、地球温暖化を防止するためにはできるだけ自動車を使わず、公共交通機関を利用することが大事であるが、モータリゼーションの進展によって壊滅状態に陥った地方の公共交通機関をすぐに再生することは難しい。でも、カーシェアリングのようなものであれば、地域通貨を用いることによってすぐにも実現できる。

ただし、こういうことすべてを蚕都くらぶだけでやって行こうとは思わない。何故ならひとつの組織に活動が集中すると、組織が肥大し、うまく機能しなくなったときに容易に方向転換が図れないからだ。それよりは、それぞれの活動に即して新たな地域通貨を作り、互換性を持たせる方がいい。

「勝ち組、負け組」や「格差社会」などの言葉とは無縁の暮らし易い地域をつくっていくためには、地域通貨の潜在能力をいかに引き出すかにかかっており、それは利用する人のアイデアにかかっている、と言ってもいい。

●最後に

５年間の活動記録をまとめた『地域通貨をこえる　ま～ゆ』を2006年11月の設立５周年記念総会に合わせて自費出版した。この中には、自由な発想の下に地域通貨を用いることによって生活がどれほど楽しく、豊かになるかが記されている。無限の可能性を秘めている地域通貨を上手に使うヒントがきっと見つかることだろう。

この原稿は私が属しているNPO 日本都市計画家協会から2007年9月に依頼があり、10月に執筆したものです。

『Planners』は協会会員以外にも全国の市に配布されているようなので、これをきっかけに『地域通貨をこえる ま～ゆ』が何冊か売れると嬉しいのですが。

定価：1,260円(税込)
問合せ：toshiken @ po6.ueda.ne.jp

ま～ゆ会員 アンケート結果

回答数　６４

Ⅰ ま～ゆメ～リングリストの活用

㋑　いつも見ている　　３５名
㋺　時々見る　　６名
㋩　登録していない　　１５名
㋥　あまり見ない　　４名（パソコンが出来ない）
　　（迷惑メールが入る）
㋭　全く見ない　　５名（　　〃　　）

Ⅱ 偶数月のハガキ通信について

①　メールを開いているので不要　　８名
②　意見・・楽しい通信です、カラー刷りで分かりやすい、今後も続けてほしい

Ⅲ　会報の受け取り

①　郵送希望　　８名
②　ま～ゆ市、事務局で受け取る　　５２名

Ⅳ ま～ゆ運営へのより多数の参加

①参加できる　　１６名
②出来ることがあれば参加　　３７名
③参加できない　　９名（体調不良、忙しくて時間が取れない）

Ⅴ ま～ゆを活性化するためのアイデア募集

☆ ま～ゆ市で

- ま～ゆ交換の告知､PR の仕方を工夫する(不用品交換はとても良い)
- アイデアを出し合うための定例会を年 2 回位行う
- 誰かが､会員の特性を聞きだす役割を務めたら?

☆ ま～ゆ寺子屋で

- 少人数でもいい寺子屋を（留学生から＝日本料理を習いたい）
- 寺子屋を“自由なテーマ”で活用したい
- 自分の得意分野や見たことなど情報発信して欲しい
- ドキュメンタリーの DVD やビデオ上映会、それをテーマに話し合いを

☆ ま～ゆ活動･その他

- 参加しやすい(時間､体力､金力､技能を必要としない)イベントを盛りだくさんに企画する
  ㋮　・だらだらと唱歌を歌う　・チンタラ百人一首　・小学程度の理科実験や工作
  　・１回だけマレットゴルフ　・オカリナを一(いち)から練習
- やりたいこと、経験したいこと等、同じキーワードを持った人たちとの仲間作りを
  (将棋･旅行等)
- 趣味の集まりを(庭木の剪定、里山トレッキング､サイクリング､ウォーキング等)
- 地域密着型のま～ゆに。行政からこぼれてしまうサービスの交換を
- 社会的に意義のある活動とま～ゆの結びつきを
- ブロックごとに分けて連絡を密にする
- 大学生へま～ゆ参加を呼びかける
- 青年を増やすことを考える
- ま～ゆのホームページを充実させる
- 現在やっていることを洗い出して､全会員に分かってもらうようにする
- プロジェクトによって､資金援助することがあっても良いのでは?

2月10日(日)の

ま～ゆ市は

“知っておきたい介護の現場„

をテーマにした**ま～ゆ寺子屋**です

午後１時３０分から中央公民館です

【ま～ゆ通帳をお忘れなく】

今年も出ます **文化創造祭**

2月15日(金)～17日(日)

只今当番募集中！　会場 中央公民館

あなたの力と時間をお寄せください！

詳しくはま～ゆ通信とMLで

3月のま～ゆ市

10日（月）　夜7時から

中央公民館で

詳しくはま～ゆ通信とMLで

７年目の躍動感

昨年 12 月は相談でもしたように、20～30 代の若者が 6 人も入会しました。平均年齢がグーっと下がりました。
ややもすれば「居心地の良いま～ゆの空気」に浸ることに慣れ、古い体質に固まる懸念を感じないでもないこの時に、新風を送り込んでくれる期待は大変大きいと思います。

ラッキーセブンのこの年に古参組(失礼)の知恵と上手く噛み合って「何かが動き出すのではないか」、それが どのように現れてくるのか？わくわくして新年を迎えました。アンケートに寄せられたご意見を参考にして躍りだそうではありませんか。

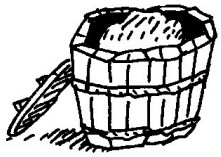
ま～ゆパワーは“餅つき大会”からも実証されるように、雪雲を吹き飛ばす勢いがあります。たとえ雪降りでも、(しっかり用意しました)それに対処する経験と知恵を持ち合わせているから「ま～ゆってすごい！」と感嘆するのです。

新シリーズの“ま～ゆ長屋の縁台ばなし”で、お正月風景のさまざまが語られているように、知恵や知識を授けられるのもま～ゆの得点ではないでしょうか。
下戸の都々平もこの空気には「酔っぱらっちゃった」ようです。

ま～ゆ味噌作り

２月のま～ゆ市から

参加者募集



1月24日(木) 7時から

寿限無で

街の気軽なマルチメディアショップ

㈲ 伸和印刷　No.57 中澤

●ご利用金額の 10%まで「ま～ゆ」をお使いください
●今、流行りの自分史を作ってみませんか?
●会議資料作りに便利な、製本機能付き
高速デジタルコピー機導入しました

上田市国分1-7-12

TEL22-7710 Fax22-7718

都市・建築工房 No.130ヒデさん(竹内秀夫)

●一級建築士事務所
●トラブルが多いリフォームだからこそお任せください
●朝日新聞のリフォーム記事を無料で差し上げます
●地元産木材を使ったローコスト環境住宅の設計料の5%まで「ま～ゆ」が使えます。

上田市御所 274

TEL0268-28-7532

http://www6.ueda.ne.jp/~toshiken/

荒井ハリ治療室 No.194 まめちゃん(荒井)

●まめちゃんの健康相談室
体の構造とルールに照らし合わせて、あなたの体のことを考えてみましょう。
●相談には500ま～ゆをお使いください。
●治療にはま～ゆを25%使えます。
●予約は電話で。

上田市踏入 2－15－10

TEL0268-24-5627

代 表　安 井 啓 子

ま～ゆ 連絡先　前 田 光 俊

〒386-0041 上田市 秋和 503-6

TEL 27-1230

ホームページ　(検索エンジンで地域通貨 ま～ゆ を開いてください)